

Marukko

Maruko Central Hospital Public Relations Magazine

まるっこ

feature articles

特集
継



齊間 陽子

【丸子中央病院の理念】 本院は、質の高い医療の提供を通じて地域のしあわせ創りに貢献します。

「カムカムエヴリバディ」

今期朝ドラに出会えた事に感謝です。前回朝ドラを見たのは出産後に放送されていた「あさが来た」ですが、あさちゃんのお陰で産後のつらい時期を乗り越えられました。この2つの物語で幕末・戦時中の時代背景、女性の立場などを目の当たりにし、戦争もなく、好きな人とも結婚でき、なりたいた職業を選べる時代になり本当にありがたいと思います。しかしなぜこんなに自由な時代になったはずなのに、生きづらさを感じるようになったのでしょうか？

「普通」である事への圧力

例えば働き始めると、結婚は？子供は？二人目は？：父母子供二人世帯が普通という事でしょうか？因みに父母子供二人世帯は、総世帯数の5%以下です（2017年4.6%）。普通の家族構成というものは完全な幻想です。そもそも普通って一体何でしょうか？

「他者との比較」

例えば出生後、出生体重は？いつ歩き始めた？まだオムツが取れないの？：生まれた瞬間から他人と比較され続けます。周囲からの何気

ない比較の言葉は、お母さんを追い詰めてしまう原因となります。他者との比較からは劣等感が植え付けられるだけで、何も生まれません。

そして生きていて最もつらい事は居場所がない事だと思います。二人の人間として尊敬されている場「さえあれば生きていく事が出来ます。しかし現在多くの子供達が自分の居場所がないと感じ苦しんでいます。愛情は言葉に出さないと伝わりません。幼い頃から「あなたが大切」と家族間で伝え合う事が、それぞれの「ひなたの道」を歩いていく原動力になると思っております。今日も見逃し配信を正座して見ながら色々と思い巡らせています。



イラスト/森田 宏子

Contents

特集 継
新しい発想を紡ぎ出し
未来を見つめて創造を続けた歴史

1~3

特集 継
絹糸系からモーターへ、
そして今後の展開

4

特集 継
「スペシャルコラム」
シナノケンシが就業規則に込めた思い

5

トピックス
Marukko TOPICS

6

新しい発想を紡ぎ出し 未来を見つめて創造を続けた歴史

2021年、シナノケンシ敷地内にあった「絹糸紡績資料館」が閉館されました。今回はその理由と今後を伺うためシナノケンシ株式会社の金子元昭社長にインタビューを申し込んだところ、創業からの数々のエピソードをお聞きできました。その一部をご紹介します。



創

業者の 金子行徳と丸子

シナノケンシ創業者の金子行徳は、小県郡殿城村赤坂、合併前の上田市と真田町の境辺りで生まれました。東京の英語学校を出て、野沢北高校（当時の上田中学校野沢分校）の初代英語教師となります。

かなりけんかっ早く、木刀を常に背負っていることから「野沢北の軍鶏」と呼ばれるほど威勢のよい先生だったようです。

その後様々な職を経て故郷に戻ってきたのですが、当時の生糸生産は作業者の経験や技術により給与や待遇に大きく差のある階級社会でした。それに対して「民主的でない、労働者が気の毒だ」と思ったようです。絹糸紡績なら機械が仕事をします。そこで絹糸紡績をやってみようということになりました。しかし、機械購入には膨大な資金が必要です。

出資元を探していたところ、上田のある有力者が資金も土地も出すということになりました。「男子意気に感ず」で、上田で絹糸紡績業を行うつもりだったようです。そんな折、依田社の社長、工藤善助さんから声がかかりました。

依田社の主力は生糸生産なので、繭がたくさん出ますが、ある大手の紡績会社が「くず繭を綿にする製綿工程をすれば売れる」と工藤さんに進言したようです。そこでくず繭を綿にするまでのいわば絹糸紡績の前工程を行うことになりました。しかし、それを勧めた紡績会社が高く買ってくれない。困った工藤さんですが、金子行徳が絹糸紡績をやりたいと聞き、依田社が持っていた前工程を活用してやってみないかと持ち掛けたのです。金子行徳は、工藤さんから「出資してくれるという人と

は心やすいから、俺が行って頼むからぜひここでやってくれ」と言われて丸子に来たのです。まだ、電車も開通していなかった時代、行徳は殿城村から丸子までほぼ13kmの道を自転車で通うことになりました。



洗滌・脱水工程のあとは天日乾燥させる



創業当時の信濃絹糸紡績株式会社の外観



第1回 国際労働会議 (ILO)にて (1919年 ワシントン) 日本代表として、工藤善助 (当時53歳) と金子行徳 (当時42歳) が参加した

絹 糸紡績資料館を閉館する理由

上田には蚕糸関連産業がすべてそろっています。蚕の卵を作る蚕種業、養蚕業、生糸生産、絹紡糸生産…。これらは各企業がそれぞれの専門分野で活動し関連資料を持って、います。ただ時代が変わって、これらの産業が途絶え、資料



貴重な文献資料は上田市公文書館や信州大学繊維学部図書館に移管



丸子郷土博物館で展示されている絹紡糸生産の流れ

を個別に管理し続けるのは難しくなっています。そこで、それぞれの資料を「蚕都上田」としてまとめて保存したほうがよいと考えました。

絹糸紡績資料館が本社再開発計画のなかで建物自体を残すことが難しくなり、その収蔵品を上田市に寄贈して、丸子郷土博物館や上田市公文書館など市内の施設で保管と展示をしていただくことになりました。また日本唯一の繊維学部である信州大学繊維学部の図書館には繊維関係の蔵書を集約して、研究者や学生にもご利用いただけることになりました。



のこぎり屋根が特長的だった絹糸紡績資料館

絹紡糸からモーターへ、そして今後の展開

絹糸紡績からモーターへと異なる事業に着手し成功したシナノケンシ株式会社。今後はどのような分野にチャレンジするのか、金子行宏常務にお聞きしました。

特集 継



上段：工場内において自分で最適ルートを選んで動く自律搬送ロボット(AMR) 下段：硬いものから軟らかいものまで、さまざまなものをつかむロボットハンドが、補助的に吸引するエアアタッチメントをつけた状態

絹

糸紡績以外の業態

絹糸紡績以外の業態を始めるにあたって、先代社長の金子八郎は、エレクトロニクス化の動きに着目し、モーター事業を立ち上げました。絹糸紡績業はいずれ衰退するだろうという産業構造の変化を見据えた経営判断によるもので、会社としては非常に大きな変化であったと思います。当社のモーターには、特に「小さく、軽く、静かに」という面で、他社と差別化できるコア技術が詰まっており、業界での強みにつながっています。

最近では自動車・医療・家電や自動化分野などで使われるモーターに加え、さらに100年後を見越して、新事業の立ち上げにも力を入れています。例えば、超小型人工衛星向けの姿勢制御装置部品や、製造業向けの自律搬送ロボット等の

生

糸と絹紡糸の違い

「生糸」と「絹紡糸」の違いというのは、今の世の中では分からない人のほうが多いでしょう。生糸も絹紡糸も蚕の繭からできているのですから。生糸はいわば糸の良い部分だけを製品化しています。一方、例えば蚕の吐き出し始めの糸や、蚕が疲れて細くなった最後の方の糸は、生糸には使えない「くず繭」です。日本では当初このくず繭は製品にならないので捨てたり二束三文で売ったりしていました。しかし、くず繭を糸にする方法、つまり絹糸紡績がフランスから伝わり、明治10年(1877年)に新町に絹紡糸の官営工場、新町屑糸紡績所ができました。絹紡糸はいわば「リサイクル」の産物なのです。



使い物になりそうもないくず繭も、加工することで光沢のある絹糸に生まれ変わる。

A

SPINAというブランド

開発・事業化に積極的に取り組んでいます。超小型人工衛星は東京のアクセルスペース社と協業しています。培ってきたモーター技術を活かしながら、いろいろな企業と協業しながら新事業立ち上げを進めています。

本

社の建て替えと研究開発棟の新築計画

2025年竣工を目指し、本社棟の建て替えおよび研究開発棟の新築計画を進めています。グローバルな開発拠点として、開発者がイノベーションを起こせるような場所を目指しています。優秀な人たちが働きたいと思われる場所、集まりやすい環境をつくり、ここ丸子をイノベーションの拠点にしていきたいです。

丸子中央病院が舞台 短編映画「残照のかなたに」

10月の末、当院で映画の撮影が行われました。
監督は、ジャッキー・ウーさんで、老作家と看護師の物語です。
新型コロナウイルス感染症対策として全スタッフ、俳優陣も含め
事前の検査を徹底して行いました。映画は海外の映画祭出品を
視野に順次公開、配信される予定です。



制作発表にて
林与一さんら

「川の絵・川の写真展」 丸子中央病院 特別賞を授与

当院も展示会場となっていた「川の絵・川の写真展」(依田川
リバーフロント市民協働事業)において上田市立塩川小学校の
2名に丸子中央病院特別賞を授与しました。自然を愛する気持ちや
あたたかさが伝わる作品をありがとうございました。



twitter はじめました!

当院の広報担当3名で、病院の取り組みから丸子・上田地域の
情報、求人情報まで様々な内容を発信しています。
みなさんからのフォローもお待ちしております!



丸子中央病院のSNSフォローもお願いします!



丸子中央病院 公式LINE開設!

外来診療担当医表や、病院のお知らせなど最新情報が受け取れ
る公式LINEが誕生しました。友だち追加は、下記QRコード、
またはLINEで「丸子中央病院」と検索して追加してください。



友だち追加

編集後記

戦後間もない混乱の中、シナノケンシ株式会社様
が就業規則を策定したことは驚きを禁じえ
ません。従業員の自主性を重んじる姿勢は、
多様性やワークライフバランスが重視される現
代を見通したかのようです。その先見の明が
100年企業の強さにつながっているのでしょう。
丸子中央病院は開業からまだ60余年。当院も
新しいことにチャレンジしていかなばなりませんね。



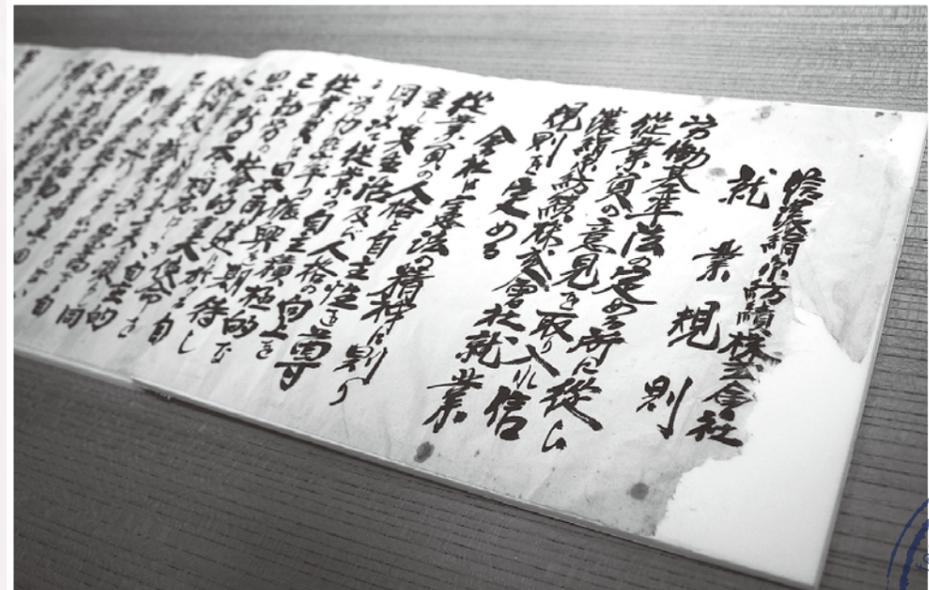
粗紡機で働く女性社員

- 発行
特定医療法人 丸山会 丸子中央病院
経営企画課 広報係 Marukko(まるっこ)制作委員会
〒386-0405 長野県上田市丸中丸子1771-1
- 編集・進行
北澤 淳一(丸子中央病院)
安藤 あすか(丸子中央病院)
春日 真翔(丸子中央病院)
- アートディレクター
五木田 忠之(MOKUBA.CO.,LTD.)
- デザイン
MOKUBA.CO.,LTD.
- お問い合わせは…
丸子中央病院 経営企画課 広報係
Marukko(まるっこ)制作委員会まで
TEL.0268-42-1111
月曜日から金曜日、10時~17時(祝日・休日・年末年始を除く)

「スペシャルコラム」 シナノケンシが就業規則に込めた思い

創業者の金子行徳は海外
で長い期間を過ごした経験
があり、「平等」を大切にしま
した。社長室に扇風機を入
れるという話になったとき、
「工場に扇風機を入れないの
に俺の部屋にだけ入れるわけ
にいかない」と扇風機を入
れなかった。「絹紡糸は人手で
なく機械なので気の毒ではな
い」というのもその発想です。
4代目社長の金子八郎は
慶應義塾大学で労働法を勉
強していました。研究は「岡
谷諏訪地区の生糸生産者の
労働条件」で、慶應義塾大学
経済学会の『三田学会雑誌』
にも論文が掲載されたこと
を自慢していました。

労働基準法が施行された
昭和22年(1947年)に、
20代だった八郎が作り上げた
のが会社の就業規則で、
今の会社の理念や社員心得
につながるものでした。
この就業規則は、長い前文
の中で「従業員の人格と自主
性を尊重」や「同僚相扶(あい
たす)け誠意を以て自己の責
任を遂行」など、社員を大切
にする考え方を書き込んだ極
めてめずらしいものでした。
当時の就業規則から現在
の社員心得まで、誠実で公正
な姿勢と自主的な精神が
一本につながっていると見え
るのかもしれない。



誠実・公正で自主的な精神を尊ぶ現在の社員心得にも通じる就業規則



精紡工程で働く女性社員



出荷される直前の絹紡糸、金馬頭ブランドとともに

